

# みなみまち協だより

第8号 平成29年3月15日

発行所：みなみまちづくり協議会  
高山市岡本町1-18 南小学校内  
Tel&Fax 34-0114

南地区の風景

## 高山駅西口から西方を望む

高山駅の西口側から西を見通すと、緑ヶ丘方面へは市道岡本緑ヶ丘線が真直ぐに伸びています。手前に市民文化会館（昭和五十七年築）があり、そのうしろには南小学校（平成十六年改築）、その先、通りから少し入っていますが松倉中学校（昭和五十七年改築）があって、一帯は文教地区ともいえる所

です（奥手には宗教真光世界総本山の特異な建物も目に入ります）。

かつて駅の西側一帯は家もまばらで、それゆえ「駅裏」などと呼ばれていましたが、昭和三十七年、南小学校ができ、次第に辺りが発展してゆく中で、その呼称は消滅してゆきました。

▼いま必要なのは、自然の中へ子どもたちを連れ出し、野外遊びを通してさまざまな体験をさせることである。ゲームはおもしろいに違いないが、自然にはそれに勝るおもしろさも楽しさもある。学ぶこともいっぱいある▼町から一步外に出れば、野や山が広がっている。ゲーム機はしまつて、もちろん安全はしっかり考え、みんなで野外へ遊びに出よう！春はもうすぐそこ。（信 由樹）

### 桜

昨年登場したスマートフォン向けのゲーム「ポケモンGO」は、子どもや若者（ときに中年も）の間に爆発的に広がり、時・所を選ばず夢中になるので、事故も起き、社会問題ともなった▼そもそも我が国に本格的なゲーム機器が登場したのが、昭和五十八年という（ファミコン）。以来、ゲーム機は形状も機能も進化し続け、子ども若者を中心に普及していった▼反面、とくに子どもたちの間に考えさせられる事態も起きた。ゲーム機遊びは内にこもる独り遊びであるため、集団遊び、野外遊びがめっきり減ってしまったことである。結果、そうした遊びを通して知恵や甲斐性といったものを会得する機会がなくなってしまった。



南小学校多目的室

# 高山市議会地域別 市民意見交換会

H28・11・9  
pm7:00



● 住民30余名が参加。  
● 市会議員4名(伊東・松葉・木本・牛丸のみなさん)が出席され、南地区の様々の課題について意見交換を行いました。出された要望や意見は、関係筋に要望するほか、議会活動に反映させてゆくということでした(これらの要望や意見の主なものについて市議会の考え方が、後日、「ぎがきだより」第26号に掲載されました)。



## 「市会議員との意見交換会」「市長との対話集会」を開催

火葬場の新設・地域交通・防犯・除雪・空家対策・新高山駅の現況まちづくり協議会のあり方等、直面している課題について活発な話し合いが行われました。

# 市民と市長の対話集会

H28・12・1  
pm7:00

南小学校多目的室



● 住民30余名が参加。  
● 行政のトップである市長と直接対話しました。地区の身近な課題を提起し、市長からは一つ一つ答えをいただきました。調査・検討を要する事項については、市役所に持ち帰り、後日、回答するということでした(後日、回答がまとめられて、みなみまち協に寄せられました)。





削り華フラワーアート教室 (2月8日)



はなもちづくり教室 (12月18日)

みなみまち協

# 行事アルバム



みなさまからご協力いただきました  
一元玉尊金のよびりサイクルバザー  
の収益金 一六〇,〇〇〇円を高山市  
社会福祉協議会へ寄付しました。

一元玉尊金・リサイクル  
バザーの収益金の寄付

(12月22日)



防災講演会

大八・空町・みなみ・岩尾・三枝の郷・丹生川  
江名子まち協共催 (2月16日/栗山中学校)



みなみボウリング大会  
(2月12日)



美しい文字の書き方 (1月7日)  
【新宮まち協との連携】



手ほどき日本舞踊【初舞】  
(1月7日)



バドミントン教室  
(5月21日)

子ども体験教室



# 解説 まちづくり協議会

## 行政は「まちづくり協議会」へ どんな支援をしているの？



支援職員  
大川 由理子

このコーナーの第1回で、「まちづくり協議会とは、その地区に住む皆さんと一緒に、住みよいまちづくりを考え、実行するための団体」とご説明しました。

私は、住みよいまちづくりとは、普段の暮らしの中でふと気づく「困ったこと」の解決や、こんな地区(町内)にしたいという「願い」をかたちにしていくために、皆さんで話しあい、知識やアイデアを出しあって、それらを実現していくことの積み重ねだと思えます。

まちづくり協議会への支援のひとつとして、地域で行なう事業の費用に対し「協働のまちづくり支援金」をお渡ししています。この「支援金」はもともとが皆さんからいただく税金であるため、酒宴が主体になつていない行事には使うことができないなど、いくつかのルールはありますが、基本的には地域の実情に応じて、ま

# 新規事業紹介 「除雪支援」



今年度、新規事業として除雪支援を行っています。この事業を始めた経緯は昨年度の情報提供書、地域で語ろう会の中で雪よけに困っている町内の方が非常に多いということから、まち協としてなにかできないかと考えたのがきっかけです。高山市でも懸命に除雪を行っています。なかなか皆さんの要望についていけないのが現状です。除雪支援計画作成にあたり、高山市維持課、社会福祉協議会と協議させていた

たき、連携を取りながらまち協としてできる範囲で除雪支援を行おうということになりました。

今年度は高山

(地域づくり部長 三尾尚之)

ちづくり協議会の自由な裁量で使いみちを決めていただくことができま

す。ぜひ、皆さんの「困ったこと」や「願い」をまちづくり協議会へ届けていただき、一緒に話し合い、南地区に住んでいてよかった、と思えるまちづくりのために支援金を役立ててください。

また、南小学校の一室をみなみま

ちづくり協議会の事務所としてお使いいただいているほか、役員会などの会議には市の担当職員や支援職員も出席し、協議会の運営や事業についての話し合いに加わっています。高山市役所は、みなみまちづくり協議会のパートナーとして、より安全で安心して暮らせる元気なまちづくりを、一緒になって考え、取り組んでいきます。

## クラブ紹介

南地区には、芸能・芸術スポーツ・地域起こし等、さまざまな分野で活発に活動されている会がいくつもあります。そうした会を順次紹介します。

### 高山南クラブ

(学童野球)



高山南クラブは昭和五十六年、高山市スポーツ少年団に加入し、南小学校区の児童を団員として活動している学童野球チームです。

最盛期には学年で数十人にもなり、Aチーム、Bチームと分けて試合に参加するなど大変な賑わいだったと当時の指導者、団員から話を聞いています。

しかし、近年はスポーツの多様化と少子化が重なり、団員数は減少し、一時は当クラブも存続の危機に直面する事もありましたが、現在は五年生七人、四年生三人、三年生九人、二年生四人の計二十三人で活動しています。

指導方針の礼儀、感謝、思いやり、勝つ喜び、負ける悔しさ等、豊かな心を育み、学年を越えた仲間との信頼絆を深める事を基に、保護者のご理解ご協力を頂き練習に取り組んでいます。

(高山南クラブ代表 山腰 昭則)



## 一年を振り返って

みなみまちづくり協議会会長

黒田 久美子

会長を受けて一年、試行錯誤の中あつというまに過ぎてしまいました。一年の間に思ったことは「まちづくり協議会」というものが地域に認識されていないということ、「社教から名前が変わっただけでないの」と言われていることで、どうしたら皆さんに知っていたら協力していただけるのかという課題が出てきました。

三年前より協働のまちづくりと言うことについては、町内会長さんとはもとより地域のいろいろな関係者の方々などと話し合いを重ね、二年前にみなみまちづくり協議会として発足しましたが、地域の一番大切な住民の皆様に伝わっていないということを進めていくうちに深く思うようになりました。伝わっていても、そんなこと無くても思っている人も多く見えると思えました。これからの時代、だんだん人口減少もあり、地域もお互いの力をかりながら生活していかなければならないことも増えてきます。もっと内容を知っていただき、地域に根ざしたまち協にしていきたいと思っています。

町内会長 畑 中信一

平成二十八年四月より、緑ヶ丘町一丁目町内会長を務めさせて頂き、みなみまちづくり協議会に関わらせて頂いて一年になるうとしています。発足して二年目のまちづくり協議

## 私にとってのみなみまち協

議会がどういうものなのかわからないまま役を引き受けたので、出来る限り会議に参加しました。高山市から支援され、地域住民の方からは、町内会を通して会費を徴収して活動しているまち協と町内会の橋渡しをどのようにするか？、まずは、役員の方に理解してもらえようという資料を渡して説明し、協力して頂ける体制を作りました。その中で高齢化が進む昨今、役員や人数を減らすなど組織のスリム化、そして若い人が積極的に活動に参加できる体制を作ることが地域の活性化に繋がるのではないかと感じました。

まちづくり委員 吉本 典子

二年前、まち協の誕生とともに、私は、まちづくり委員になった。

四月の会議には、町内会長や長寿

会など幅広い参加者があった。マンネリ化していた社教は、これから新しく生まれ変わるのだと期待した。しかし、実際の行事や活動は、社教の時とほとんど同じだった。

私は社会教育部長だったが、会議への参加者も、だんだん減っていった。小さな町内から、毎年二人の委員を出すのは大変だ。何度も回って行くし、やりたいわけではないが、出たからには、責任を果たし、できるだけのことにはしたいと思っている。

何年間も同じ方々に執行部という大変な役をまかせ、同じような行事を消化していく組織から、より良い地域に変えていくための「みなみまち協」にしていかなくてはと思う。

(名田町五)

青少年育成推進員 浅野 瑞絵

南地区には二十年前に主人の転勤で越して来ました。二、三年で転勤の予定が、縁あって高山で根を下ろす事になりました。南小の役員を経た社教、まち協と関わる中で、よそ者から地元民へとなれた気がします。役を受ける事で、ただの主婦では到底得ることのできない人との繋がりができました。当初は自信がなく

「私なんか」と尻込みしていましたが「私でもよければ」と気持ち切り換え積極的に行動した事が、生活

を豊かにしてくれています。顔見知りが多いまちで暮らす事で、いつもあたたかい気持ちになります。何かを頼まれたら「私でもよければ」と受ける勇気を持つ事で得られる豊かさ。皆さんも勇気を出して南地区を暮らしやすいまちにしませんか？これがまち協に対するおもいでです。

(昭和町二)

地域見守り推進員 竹腰 幸夫

少子・超高齢化社会をむかえての協働のまちづくりからはや二年です。まち協の発足当初から福祉部に所属する事となり、敬老会・ふれあい文化祭の大きなイベントを楽しくお手伝いをさせて頂きました。

昨年、みなみ地区防災を考える会(災害図上訓練)に参加する機会がありました。その中で、災害時における避難行動要支援者への対応の大切さを感じました。

現在、町内での高齢者の見守りを町内会と歩調を合わせ行っています。災害時に避難困窮者をどのようにして救うか？又、災害が起きる前に何が出来るのか？地域の見守りとともに検討していく事が課題です。

これからも、安心して暮らせるように地域の防災力を高めるため少しでもお役に立てればと思っています。

(西町)



# 南地区ウオッチング

## 三、駅西地区

文・写真 新谷信之

前号の「旧市街地区」、「駅前地区」に続き、今回は、「駅西地区」をウォッチングする。

### 駅西地区

#### ●昭和町・岡本町・上岡本町地区

高山駅の西側から西方の中山丘陵に至る一帯の地区である。かつて農家の点在する田園地帯であったが、



賑わうアンダーパス西側界限

戦後開発が進んで急速に市街地化していった所である。ほとんどが住宅地

代、この辺り一帯は飛騨の中心地であったことが伺われる。この地区の大部分を占める上岡本町内会は、市内でも有数のマンモス町内会となっている。

#### ●松倉山と北麓地区

松倉山とその北麓を含む地区である。松倉山は標高八五六m、南地区民のみならず、高山市民にとつても昔から馴染み深い山である。山の南面（松倉谷側）が急であるのに対し、北面は緩く傾斜して丘陵を北へ派生させている。樹相は、アカマツ・ヒメコマツ等の針葉樹とコナラを主とした落葉広葉樹の入り混じるいわゆる混交林で、自然豊かな山である。棚田の土手からは貴重な春の美蝶、ギフチョウも発生する。山頂は旧城址で、巨大な松倉石で築かれた野面積みの重厚な石垣が今も残る。山頂へは登山道も整備されていて、山頂からの眺めはすばらしく、眼下には高山の町、そして背後には飛騨山脈の大パノラマが広がる。



閑静な緑ヶ丘の住宅街、後方は飛騨の里・松倉山

本町一丁目には南小学校、上岡本町三丁目には松倉中学校があり、この一帯は文教地区でもある。また、西端の高台には県飛騨総合庁舎をはじめとする官公庁がいくつも立地し、その先には飛騨山脈の絶好眺望地、アルプス展望公園スカイパークがある。地区内を南方の源氏岳（二・四二四）を水源とする苔川が流れ、そのほとりの辻ヶ森三社（岡本町二丁目）の地には飛騨國分尼寺跡がある。ここから東にある飛騨國分寺、そして飛騨國庁があったと伝承のある神社北の古立（館）の地と合わせ、奈良時

山裾には、高山市を代表する観光施設「飛騨の里」やミシュランの観光ガイドで三ツ星の評価を得ている「飛騨高山美術館」があり、界限は観光

客で賑わう。また、丘陵地の一角を占めて宗教真光世界絵本山が独特な景観を見せている。

この山裾の住宅地には、上岡本町町内会の一部となる上岡本町一・二丁目や南地区で一番西の町内会となる松原町がある。またその北の先には、閑静な住宅地の緑ヶ丘町二丁目・二丁目がある。これらの町内会と南地区東端の宮川沿いの川原町や本町一丁目とは三㎞余離れているが、隔たりの感はずたたくなく、南地区という一つのコミュニティの大きな輪の中にある。

（終）



# みんなで解いてみよう！ 「みなみまち協」

## クロスワードパズル

### 【タテのカギ】

- ①川原町と西町の間にある小路
- ②新高山駅には、～口ができました
- ③緑茶を茶うすでひいて粉にしたお茶
- ④日常の衣食住のため家に置く道具
- ⑤物の一番さきの部分
- ⑥南地区で一番東にある町内会
- ⑦穀物などの量をはかる四角い容器
- ⑧夫婦の一方をいいます
- ⑨暑い夏はこれが一番。～ビール
- ⑩建物の出入口にあります
- ⑪陣屋前で毎朝開かれています
- ⑫飛騨では「こけ」といいます
- ⑬弓の矢を当てる目標

テーマ 『南地区』  
A～Gをつなげたものが答えです。

1			7		6	7	8		12
			A						
1	B	3			8				10
2				F			9		
3					10			C	
		5	5						11 13
2						12	9		D
4		4					13		
									14
		6							

### 【ヨコのカギ】

- ①草を刈るときの道具
- ②南地区で一番西にある町内会
- ③哺乳類が子を育てるために与えます
- ④「やり方」の別のいい方
- ⑤作物の育ちにくい土地

- ⑥高山御役所(陣屋)の一番のエラ様です
- ⑦陣屋前広場の周りに多く植えられている針葉樹
- ⑧うっかりしてよくやります
- ⑨「あずき」「いんげんまめ」などを煮てつぶしたもの

- ⑩手術のとき行います
- ⑪女性の僧
- ⑫高山駅のすぐ前の町
- ⑬「私」のことを英語で
- ⑭～も積もれば山となる

(作/N・A)

## みなみまち協のホームページ

広報ボランティア  
谷 眞智子

みなみまちづくり協議会だよりの「ホームページ作成お手伝い募集」を見て、地域のことに少しでもお役に立てることができたらと応募し、作成と運営に関わらせていただいています。

組織や各部会のねらいなどの基本情報をもとに、

ホームページの作成



28年4月にホームページを開設することができました。年間で変わらない事はホームページで、お知らせや行事の様子はブログで紹介しています。

適時の更新と分かりやすいページにすることが課題です。現在、協議会全体と社会教育部の活動紹介が主な記事ですが、今後、地域づくり部や福祉部の活動、地域の様子など幅広くアップしたいと考えています。記事収集が難しいため、皆様からの情報提供をお願いしたいと思います。

直接か電話で、パソコンやスマホからは、ホームページのお問い合わせページ、または、みなみまちづくり協議会あてにメールでお知らせください。ブログにコメントをしていただくと直接、意見や感想を寄せていただくことができます。ご協力よろしくお願ひします。

ホームページ : <http://minamachikyosakura.ne.jp/index.html>

問い合わせ : <http://minamachikyosakura.ne.jp/admission.html>

ブログページ : <http://minamimachikyoushida-ch.com/>

メール : [minami-machikyoushida@hidatakayama.ne.jp](mailto:minami-machikyoushida@hidatakayama.ne.jp)



# 南地区街角散歩(五)

文・写真 新谷信之

## 韓志和(木鶴大明神)像

観光客で賑わう赤い中橋の西のたもとに中橋公園がある。昭和六十二年、市制五十周年を記念して造られた小さな公園であるが、滝や池や植え込みが配され、四阿も建てられていて、そこには市民や観光客のくつろぐ姿がいつも見られる。

この公園の片隅に六角柱の高い台座に乗った一つの銅像が建っている。仰いでみると、大きく翼を広げた鶴が、右手に槌、左手にのみを持った人物を乗せて雲の上を飛んでいる。銘板には、「飛騨の匠韓志和(木鶴大明神)像」とある。この像は、公園造成を記念して高山西ロータリークラブが贈ったもので、それは高山



韓志和(木鶴大明神)像  
— 中橋公園 —

この銅像は、独特の雰囲気をもった立派な像であるが、公園の隅に建っているせいか、開けた場所に建つ城山公園二之丸跡の金森長近像や、鍛冶橋上の手長足長像に比べ、注視して行く人をあまり見かけない。惜しいことである。

市の飛躍を大空を飛ぶ韓志和によって具象化したものという。

韓志和は平安時代初期の飛騨の匠の一人で、唐に渡り、時の皇帝、穆宗に仕えて重用されたという伝説上の人物である。江戸時代前期の学者松下見林の「異種日本傳」には、韓志和は木で作った鶴に乗って空を飛んだという話が書かれている。

飛騨國分寺には、韓志和の木像(高山市指定文化財)があり、工匠の神として神格化され、「木鶴大明神」と呼ばれている。一方、木鶴大明神は、飛騨の匠の始祖といわれている鎌倉時代末期の飛騨権守藤原宗安であるという説もある(この方も飛騨國分寺に木像がある)。伝説上の人物と実在の人物が一つになりややこしいが、木鶴大明神は、建築関係の人たちの厚い信仰の対象となってきた。

## 文芸南俳句

### 陣屋句会

顔見世の汐汲みの紐鮮やかに

中家富枝

根菜の煮立つ弥生のガラス鍋

中嶋文子

つぶやきて沈む葦石飛騨に老ゆ

高木みつ江

籠もりゐて思案めぐらす根深汁

森本喜恵

木々芽吹く水車の音の軽やかに

池村とみ子

おぼろ月九十年と言ふ淡きもの

小鳥輝枝

### 葉月会

鶏の三歩で忘する老の春

安藤 桂

出入り無き一日でありし実万両

上田真穂子

梅咲けり朝の卵に黄身二つ

栗田美由紀

春雪の枝強く蹴り鳥の立つ

小林高子

雪激し母逝きし日の目交に

紺谷健次郎

一服す啜る焙じ茶春の空

下屋孝雄

響き合ひ二台ピアノのクリスマス

瀬川章子

山城の壕跡定か梅三分

玉田信哉

雛まつり小さき客の靴並ぶ

保木信子

まんまるや母の手捏の供へ餅

益田美貴子

梅の香に歩み緩めし帰り道

山本晴世

南天の葉の先手繰る深雪晴

米沢智子

## 編集後記

前号掲載の南地区をテーマとしたクロスワードパズルはいかがでしたでしょうか。余勢を駆って二作目を作ってみました。紙面に変化をもたせるための工夫です。

情報の溢れているこの時代、「みなみまち協だより」としても、数多い情報の中からどの情報を取り上げてお伝えしたらよいか、その選択に悩みます。広報紙づくりは結構気の抜けない仕事ですが、みなさまの協力のもと、より親しまれる広報紙となつてゆくことを願っています。(新谷)